

天声人語

京都盆地の南西にある乙訓地域はタケノコの名産地である。

京都府向日市で竹林を営む田中益一さん（62）を訪ね、掘り方を教わった▼土から顔を出したものには手をつけない。のどを刺す「えぐみ」があるからだ。地割れや隆起をたよりにスッとくわを土に刺す。身を傷つけぬよう地下茎の筋を読み、素手でやさしく掘り起こす。（発掘の石仏に似て春筍）村上喜代子▼「子ども時分に覚えた人は手際がいい。バイオリンの稽古に似ています」と田中さん。いまは祖父や父から教わった知恵を、高校生の息子さんに伝える最中という▼田中さん宅で孟宗竹の水煮をいただいた。身がとろけるほど軟らかく、まるやかである。流通量は少ないものの、淡竹は苦みがあつてバリバリした食感が通に好まれる。真竹も苦いが、軟らかみは孟宗に近いそうだ▼一帯は長く竹産業で栄えた。かつて竹材は、桶や樽の製造、建築現場はもちろん、のりの養殖のさおや、衣類のボタンにも使われた。近年は需要が細り、花器や茶器、門松など工芸品が軸と聞く▼「いまは昔、竹取の翁といふもの有けり。野山にまじりて竹を取りつゝ、よろづの事に使ひけり」（竹取物語）。長きにわたり生活全般「よろづの事」を支えてきた竹の万能性に思いを致す。もっぱら春先にかぶりつくばかりで、竹やぶに足を向けない現代人の暮らしぶりを知つたら、竹取の翁も嘆くことだろう。竹な忘れそ。

淡竹、ついで真竹へ旬が移る。孟宗竹の盛りが過ぎ、これから益一さん（62）を訪ね、掘り方を教わった▼土から顔を出したものには手をつけない。のどを刺す「えぐみ」があるからだ。地割れや隆起をたよりにスッとくわを土に刺す。身を傷つけぬよう地下茎の筋を読み、素手でやさしく掘り起こす。（発掘の石仏に似て春筍）村上喜代子▼「子ども時分に覚えた人は手際がいい。バイオリンの稽古に似ています」と田中さん。いまは祖父や父から教わった知恵を、高校生の息子さんに伝える最中という▼田中さん宅で孟宗竹の水煮をいただいた。身がとろけるほど軟らかく、まるやかである。流通量は少ないものの、淡竹は苦みがあつてバリバリした食感が通に好まれる。真竹も苦いが、軟らかみは孟宗に近いそうだ▼一帯は長く竹産業で栄えた。かつて竹材は、桶や樽の製造、建築現場はもちろん、のりの養殖のさおや、衣類のボタンにも使われた。近年は需要が細り、花器や茶器、門松など工芸品が軸と聞く▼「いまは昔、竹取の翁といふもの有けり。野山にまじりて竹を取りつゝ、よろづの事に使ひけり」（竹取物語）。長きにわたり生活全般「よろづの事」を支えてきた竹の万能性に思いを致す。もっぱら春先にかぶりつくばかりで、竹やぶに足を向けない現代人の暮らしぶりを知つたら、竹取の翁も嘆くことだろう。竹な忘れそ。